

令和 8 年度 県立大子清流高等学校自己評価表

目指す学校像	人間尊重の精神を基盤に、社会の変化に主体的に対応できる、個性的で創造性や国際性に富む、心豊かな人間を育成する。 ○一人一人の生徒を大切にし、対話を基本としたきめ細かな教育を行う学校 ○自分の将来を深く考え、主体的に進路実現ができる能力を育む学校 ○安心して学べる教育環境を提供できる学校 ○地域と共生し、地方創生に貢献できる教育を行う学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○人間尊重の心を持ち、社会の変化に主体的に対応できる、心豊かな人材 ○自分の個性を大切にし、対話による高いコミュニケーション力を持つ人材 ○自分の将来を深く考え、主体的に進路実現ができる人材 ○地域の魅力を理解し、地方創生に貢献できる人材	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○地域の農林業の特性を生かした教育課程による、多様な進路希望の実現 ○生徒の幅広いニーズに対応した教育課程による、就職から進学までの進路希望の実現 ○高齢化社会と地域の要望に応じた実践的な教育課程による、福祉系の進路希望の実現	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○夢を実現するための確かな学力を育もうとする生徒 ○豊かな心と健やかな体を育もうとする生徒 ○時代の変化やグローバル社会に対応しようとする生徒 ○地域と連携し、地域貢献に努めようとする生徒 ○自分らしく輝ける社会の実現に寄与できる生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
大子一高・大子二高の歴史と伝統を引き継いで誕生した本校は、昨年度第 20 回目の卒業生を送り出した。課題解決に向けた学習の推進や国立大学進学を目指した課外などの進路指導の充実、公営塾との連携により国立 1 名を含む大学	確かな学力を育む、学習指導の推進	● 主体的学習態度の育成 ・学習意欲を喚起し、「主体的、対話的で深い学び」を実現するための授業改善 ・言語活動の充実及び教科横断的なカリキュラムマネジメントの実践 ・課外授業・公営塾への参加促進及び Classi などの ICT の活用等による家	

別紙様式 2 (高)

<p>進学者 9 名、公務員 3 名を始めとし、進学・就職の実績を残すことができた。</p> <p>多様な進路希望を実現できる確かな学力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け ICT を活用するなど授業改善の取り組みを一層推進し、生徒の学習意欲の向上に繋げている。さらに、創意工夫を活かした特色ある教育活動の推進を目指したチャレンジプロジェクト事業では、オオクワガタの養殖・販売や異文化交流、ドローン講習や福祉実習など、様々な探究活動を通して問題発見・解決能力の伸長を図り成果を上げている。</p> <p>しかし、部活動においては、生徒数の減少を踏まえた部活動の再編を図りながら、さらなる活性化が求められる。また、開かれた学校づくりに向けた、ホームページの充実、「清流だより」の配付や「広報 DAIGO」への学校紹介等の掲載を行っているが、地域、県内、県外の中学生・保護者への浸透はまだまだ十分ではない。</p>		<p>庭学習の習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導の充実 ・ ICT の活用、少人数授業等による基礎学力の向上及び確かな学力の育成 ・ 課題解決能力を向上させるための、魅力ある実習及び課題研究の実践 ・ 農林科学科の特性に対応した組織的、系統的な指導体制の構築 ・ 指導と評価の一体化のための、観点別学習状況評価の推進 	
<p>豊かな心と健やかな体を育む、特別活動及び生徒指導の推進</p> <p>しかし、部活動においては、生徒数の減少を踏まえた部活動の再編を図りながら、さらなる活性化が求められる。また、開かれた学校づくりに向けた、ホームページの充実、「清流だより」の配付や「広報 DAIGO」への学校紹介等の掲載を行っているが、地域、県内、県外の中学生・保護者への浸透はまだまだ十分ではない。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳教育・特別活動の充実 ・ 「公共」の授業や特別活動の場面を中核とする学校活動全体を通じた道徳教育の実践 ・ 生徒会・各部・各委員会活動の活性化による「豊かな心」の育成 ・ ボランティア等の体験活動の推進による「他人を思いやる心」の育成 ● キャリア・パスポートの充実 ・ 主体的に目標を設定し、校内外の諸活動において体験したことや考えたことを表現する力の育成 ● 生徒指導の充実 ・ 自己指導力の育成による基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚 ・ 面談等による生徒理解の推進及びカウンセリングの充実 	
<p>令和 4 年度から本格的に実施された大子町中高連携事業へ積極的に参画し入学者増を目指した取り組みを推進している。総合学科では、総合的な探究の時間「だいが未来探究」を計 3 単位とするなど教育課程を見直し令和 7 年度入学生から全国募集を開始した。町と連携した積極的な情報発信や東京での進学フェス参加により全国及び県内遠隔地からの入学者は、令和 6 年度 1 名、令和 7 年度 10 名、令和 8 年度 12 名と増加傾向にある。</p> <p>一方で、本年度も大子町町内からの入学者は前年比で減少しており、保護者や中学校への情報発信が必要である。</p>	<p>時代の変化やグローバル社会に対応できる、進路指導の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 進路指導の充実 ・ 進路希望に対応した、組織的、体系的なキャリア教育の充実 ・ 国公立大学に進学できる学力をつけるための授業実践と課外授業の推進 ・ 企業訪問・大学見学会・講演会等による、望ましい職業・勤労観の育成 ● 国際教育等の充実 ・ 国際交流事業等の充実による、異文化並びに自国文化理解教育の推進 ・ グローバル社会で活躍するための、多様性の涵養並びに挑戦心の育成 	
<p>職員が働き方改革をより一層推進しつつ、生徒の特性に応じた効果的な教育活動が行える体制を整備し、国立大学進学、公務員、民間企業進</p>	<p>保護者や地域との連携及び本校教育活動に関する情報発信の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者・地域・小中学校との連携や交流の推進 ・ 地域との連携による地域人財の積極的な活用（「だいが未来探究」「学校外学修」で実践） ・ 地域や小中学校との積極的交流による、地域に開かれた学校づくりの推進 ・ 大子町との連携・協力の強化、支援を生かした教育・広報活動の展開 ● 教育活動等の情報発信の推進 ・ 「清流だより」の配布、学校HP、「地域みらい留学」等の Web コンテンツを活用した広報活動の充実 ・ 学校説明会の充実並びに積極的な学校公開・学校訪問の実践 	

別紙様式 2 (高)

学と多様な進路希望の実現を図っていく。加えて地域社会活動等に積極的に参画し、日頃の学習成果と本校の魅力を広く周知し、地域創成を担う人材を育成する学校構築を目指していく。	生徒の特性に応じた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な生徒理解による個別支援とインクルーシブ教育の推進 ・適切な生徒理解と教育的ニーズに応じた個別支援の充実 ・インクルーシブ教育実践のための関係専門機関との連携及び研修の推進 		
	働き方改革の実践	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務の効率化による働き方改革の推進 ・業務の効率化及び意識改革による働き方改革の推進 ・積極的な休暇取得の推進 		
	授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習意欲向上の推進 ・「育成を目指す資質・能力」を意識し、授業のねらいの提示と授業振り返りの実践 ・教科や領域に応じて適当に ICT 機器を活用するなどし、より深い学びにつながる授業の推進 ・生徒による授業評価（4段階）において、授業満足度（KPI）3.4 以上を目指す 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語	基礎的・基本的な知識の定着を図る。	漢字テストや知識事項の小テストを行い、反復学習を通して知識の定着を図る。 生徒の実態に合わせた教材の選定を行い、ティーム・ティーチング等を通して、生徒をきめ細やかに指導できる授業を行う。		
	伝え合う力を育てる。	グループワークや発表等を通して他者に自分の考えを分かりやすく伝える方法を考えさせる。		
		他者の意見を傾聴する時間を取り、自分の意見を深めることができるようにする。		
	進路指導の充実を図る。	志望理由書など文章の添削指導や面接指導を通して、生徒の志望進路実現に努める。		
		生徒の志望進路に応じた課外や補習を行う。		
	ICT 教育の充実を図る。	電子黒板やタブレット等電子機器を活用し、主体的で対話的な学びが深まる授業ができるようにする。		
		プレゼンテーションの準備、発表を通して社会に出た際に必要な情報選択能力や論理的思考力を養う。		
生徒の主体的学習を ICT により実現し、他者と協働して問題を解決する力を育む。				
授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 60%になるよう授業改善する。			
地歴・公民	基礎学力の向上を図る。	学科・系列・クラス等の実態に合わせた授業を行う。		
		授業内で定期的な学習内容の振り返りを行う。		
		授業内の課題や家庭学習課題、小テストなどを課すことで、理解の定着を図る。		
	学習指導法の研究・実践に努める。	副教材・視聴覚教材・実物教材・ICT を効果的に利用した授業を展開する。 ペアやグループでの学習、記述、論述、説明、問題演習など多様な授業を単元のねらいや生		

別紙様式 2 (高)

		徒の実態に応じて展開し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。		
数学	基礎学力の向上に努める。	授業内で生徒の学び直しを進め、基礎学力の向上に努める。		
		定期的に課題を提示し、家庭学習を通じて振り返り学習を促す指導を行う。		
		数学検定を開催し、合格率向上のため課外等で対策を行う。		
	進路指導の充実を図る。	生徒の希望進路や学習意欲に応じた課外を継続的に実施する。		
		四年制大学・短期大学・専門学校・公務員試験等の出題内容を分析・研究し、生徒の進路実現に資する指導を行う。		
	教科指導力の向上に努める。	資質向上研修などに積極的に参加し、授業力の向上を目指す。 ICT 機器を効果的に活用した、生徒の理解を深める授業実践を行う。		
授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。			
理科	基礎学力を定着させる。	授業後に振り返りや小テストを行うことで、基礎学力の定着を図りつつ、学習内容の定着を把握し、必要に応じて補習を実施するなど生きて働く「知識・技能」の習得を目指す。 教員間の授業公開・参観、各種研究会への参加を通して、指導力の研鑽を積む。		
	生徒の学習意欲を喚起する授業を行う。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を図るため、研修や相互の授業参観等を行い、「わかる授業」の実践を目指す。 日常生活や社会との関連を授業で取り扱うことで、社会の変化に対応できる「思考力・判断力・表現力」を身につけさせる。		
	自主学習の習慣化など、主体的に学ぶ態度を育成する。	副教材や配付資料などを精選し、適切な課題を課すことで、自主学習を促進する。 実験・観察を通して、自然現象への興味・関心を高め、基本的な「実験・観察の技能」を習得させる。		
	さまざまな希望進路に応じた指導を行い確かな学力の育成を図る。	ICT 機器や動画等を活用した授業方法を研究し、生徒の授業理解の手助けとする。 大学進学希望者への平常時や長期休業中の課外を通して、さらに高い学力を身に付けさせる。		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 60%になるよう授業改善する。		
	保健体育	生徒の実態を把握した学習指導計画の充実を図る。	地域や学校の実態に即した学習内容および系統的な指導計画の工夫をする。 運動の喜びや楽しさを理解させ、内容の習熟に意欲的に取り組む指導計画の工夫をする。	
	健康で豊かなスポーツライフを育む評価の工夫を図る。	評価規準と評価方法を工夫し、具現化する。		

別紙様式 2 (高)

	豊かなスポーツライフの基礎を培う体育学習の工夫を図る。	集団行動の指導を重視する。		
		自ら体力を高め、自発的に運動の学び方や技能の習得に取り組むような学習方法を工夫する。		
	自らの健康を適切に管理し、改善していく実践力を培うための保健学習の充実を図る。	課題学習や調べ学習による自主的・自発的学習を促進する。		
		多様な体験的、実践的学習の活用による学習を工夫する。		
授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。			
芸術	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	芸術の多様な領域・分野を扱いながら、生徒が主体的に取り組むことができる学習活動を計画・実施する。		
	感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす。	芸術に対するとらえ方や考え方を深化させたり、それらを自ら表現したりできるように ICT 機器を取り入れて、学習活動を工夫する。		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 50%になるよう授業改善する。		
英語	英語への興味・関心を高める。	A L T と協力し、英語や異文化に触れる機会を多く設ける。		
		ICT 端末を効果的に活用することで、生徒が自律的に英語を学ぶ環境を整え、学習の定着を促進する。		
	上級学校進学に必要な英語力を身につける。	クラスルームイングリッシュを多く使用する。		
		継続的な週末課題や小テストの実施、副教材の効果的な使用によって自発的な学習意欲を高め、家庭学習を習慣づける。		
	コミュニケーション能力を育む。	ペアワークやグループワークを通し、自分の表現したいことを相手に伝える力を育む。		
		自国の文化や興味のある事柄について、他者に伝えるための十分な知識を深める。		
パフォーマンステストを年に 2 回以上実施する。				

別紙様式 2 (高)

	外部検定試験受験を推進する	英検・進学課外を充実させ、各級の保持者数の目標を次のように設定する。			
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。			
家庭	日常生活に必要な知識と技術の習得を図る。	日常生活に活かせるような内容を設定し、実践的学習の充実を図る。 生徒の実態に応じた授業や実験実習に努める。			
	体験学習の充実を図る。	幼稚園等での保育実習や外部講師によるマナー講座など体験学習の充実を図る。			
	資格取得の促進を図る。	学科の特性を活かした資格取得のための指導を通して、関心・意欲を高める。			
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。			
	福祉	基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	基礎的・基本的な知識と技術が習得できるよう、教材の工夫に努め生徒一人ひとりに応じた授業を展開する。		
ICT教育の充実を図る。		ICT機器や動画等を活用した授業を展開することや、実習報告会の際にパワーポイント作成を通して、生徒に思考力・判断力・表現力を身につけさせる。			
地域福祉理解に努める。		実習施設と連携し町内の高齢化率や福祉施設への理解を深め、地域福祉への関心を高める。			
資格取得の促進に努める。		介護職員初任者研修の修了を目指す。			
授業改善の推進		学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。			
農林科学	農業・林業教育の充実と地域と連携した農業教育の推進に努める。	実践的・体験的な学習を通して、情報化社会に対応した魅力ある農業教育を推進する。			
		農業学習の特質とプロジェクト学習の意義や進め方について理解させ、生徒の興味・関心を高める。			
		農林業の各分野について基礎的、基本的な知識と技術を習得させる。			
		農林業に関する幅広い資格取得環境を整える。			

別紙様式 2 (高)

	農業クラブ活動を充実させる。	農業クラブの目的を理解し、学校生活の柱としての活動の場を整える。		
		様々な活動を通して科学性・社会性・指導性を高める。		
		体験的な学習を通してプロジェクト学習を活性化させ、生徒の健全な心と生活態度を育成する。		
	職業人として、意欲的で人間性豊かな人材を育成する。	個性に応じた指導を通し、生徒の適性に合った進路選択に繋げる。		
		農林業の社会的な意義や役割についての理解を深め学習意欲の向上を図る。		
		地域の農林業について理解をし、地域との連携を継続的かつ積極的に実施する。		
	圃場及び演習林の管理と整備促進する。	安全な実験実習の環境（圃場・演習林）の整備を図る。		
		圃場の活用と農業機械学習の促進及び、圃場・演習林の活用と専用機械学習の促進を図る。		
	授業改善の推進	学校評価アンケートにおいて、授業満足度の「授業が分かりやすいと思う」生徒が 40%になるよう授業改善する。		
	教務	授業のスキルアップ	お互いの授業を公開することで、授業のスキルアップを図る。	
学習指導の充実に繋がる観点別学習状況評価の推進を図る。				
学習意欲の涵養		ICT を活用する等教材等を工夫し、生徒の学ぶ意欲の向上を図る。		
ICT 環境の整備		授業や探究活動などにおいて、ICT を活用し深い学びができるよう環境を整える。		
家庭学習の習慣化		家庭学習の習慣化を図るため、Classi 等の ICT の活用を推進する。		
広報活動の活発化を図る。		HP、ポスター、学校だより「清流」、クリアーファイル、学校案内等の充実を図る。		
図書館の利用推進		幅広い分野からバランスを考え、生徒に有意な選書を行う。		
図書館の環境整備		希望図書アンケートを実施し、役立つ図書を購入する。		
		新着図書を速やかに貸し出せるようにする。		
図書館の利用推進		生徒の声を活かし、利用しやすい図書館づくりを行う。		
生徒支援	生徒の実態を把握した生徒支援体制の充実を図る。	自殺、不登校、暴力行為等の問題行動の未然防止と組織的かつ迅速な対応に努める。		
		情報の共有化により組織内における行動の連携の充実を図る。		

別紙様式 2 (高)

	いじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行う。	いじめの未然防止に努める。	
		いじめの早期発見に努め、適切な解消を図る。	
		いじめの対応について、関係機関と連携を図る。	
		いじめに関する教職員研修を実施する。	
	生徒の自己実現を促す指導・援助の充実を図る。	生徒が存在感や所属感を実感できる学級づくりの支援に努める。	
		生徒と教師、生徒相互の好ましい人間関係づくりの推進を図る。	
		生徒支援上の課題に対応した校内研修を実施にする。	
	規範意識の高揚と公共マナーの向上を図る。	教師と生徒の日頃の人的なふれあいの中で、あいさつの励行や社会規範の指導を徹底するとともに、自己抑制力の涵養を図る。	
		服装・頭髪などの指導を通して自律意識の向上を図る。	
		基本的生活習慣の定着（特に遅刻防止）とマナーアップに向けた取り組みの充実を図る。	
	教育相談の充実を図る。	生徒の特性に応じた、一人一人の心身のよりよい発達を促す指導・援助の推進を図る。	
		生徒に応じた教育相談体制の構築を図る。	
		スクールカウンセラーの活用を図る。	
家庭や地域社会、関係機関との連携を図る。	学校と家庭、地域社会、関係機関との情報共有および行動の連携を図る。		
	校種間連携の充実を図る。		
交通安全指導に努める。	バイクの実技講習、バイク・自転車の定期点検等を実施し、事故防止の啓発を図る。		
進路指導	生徒一人ひとりの進路目標実現をめざし、適切な援助をする。	担任や学年等と連携しつつ、さまざまな視点から進路関係のアドバイスを行う。	
		多様な生徒の希望進路実現のために、個に応じた適切な進路指導を行う。	
		「大学進学プロジェクト」を推進し、国公立大学合格者の確保を目標とする。	
	地域の企業・行政等との連携を強化し、キャリア教育を推進す	企業・ハローワーク・行政等との定期的な情報交換を行い、より良い関係を構築する。	
他分掌と協力し、生徒参加型の活動（地域未来探究やインターンシップ等）を充実させる。			

別紙様式2 (高)

	る。	公営塾「ことのぼ」と協力しながら、低年次よりキャリア教育を推進し、職業観・勤労観を育成する。			
	生徒・保護者およびクラス担任に適切な進路情報を提供する。	各学年団と連携して、各種ガイダンス等の行事を積極的に推進する。 進路指導部会や3学年担当者との打ち合わせ等を定期的 to 実施し、情報を常に共有する。 定期的に「進路だより」を発行するなど、随時適切な情報提供を行う。			
特別活動	他者と協働する集団活動を通して、よりよい人間関係を形成し、自他を尊重する態度を養う。	特別活動を通じた道徳教育を充実させ、生徒の資質、能力の向上を図る。学校行事の意義や育みたい資質、能力を明確にし、生徒に意識させる。			
	集団や自己の課題を解決する能力と合意形成を図りながら、主体的に社会に参画する態度を養う。	学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動を相互に関連付けるとともに生徒の自発的、自治的な活動を促す。 探究活動の成果を学校行事で発表する機会をつくり、学校や地域の活性化に貢献する。			
	特別活動を通して生徒の自己有用感を高め、自己の在り方、生き方について考えを深める。	キャリアパスポート等を活用して特別活動の事前・事後指導を充実させる。			
保健厚生	健康を保持し、増進させるための知識を育てる。	健康教育講話等の実施と事後指導を充実させる。 保健関係資料等を活用し、生徒の健康教育の充実に努める。			
	自他の生命を尊重する安全意識を育てる。	防災訓練を実施し、災害時に対応出来る力をつける。 教職員対象の防犯訓練を実施する。 職員・生徒向けの救命救急講習会を実施する。			
	よりよい校内環境づくりのための整備と工夫に努める。	校内の環境美化・安全の啓発を行う。 委員会活動において校内の環境美化に努める。			

別紙様式2 (高)

渉外	学校と家庭の連携を図る。	P T A総会・評議会・専門委員会、学年P T A等運営の活性化に努める。			
		会報「清流」の発行や保護者通知等、広報活動の充実に努める。			
	関係機関や地域との連携を図る。	登校指導・巡回指導等、学校と家庭と地域社会が一体となって、生徒のマナーアップや規範意識等社会性の向上に努める。			
		関係機関や地域の声を聞き、生徒の健全育成に生かす。			
P T A会員の教育活動への積極的な参加を推進する。	学校行事や視察研修等、会員の積極的な参加を促し、会員相互の親睦を図るとともに、教育活動の一層の推進を図る。				
第1学年	生活面の指導の充実に図る。	公共マナーを遵守させる。			
		挨拶・返事・清掃の指導を徹底する。			
		良い基本的生活習慣を確立させる。			
	学習面の指導の充実に図る。	進路に対する意識づけをする。			
		家庭学習を習慣化させる。			
		授業を受ける態度を意識させる。			
		課題の提出を徹底する。			
	その他の活動の充実に図る。	学校行事・部活動・特別活動へ積極的に参加させる。			
		スマートフォン・タブレット等の正しい使用を指導する。			
		他者との協働を推進する。			
第2学年	基本的生活習慣の確率	挨拶をはじめ、基本的生活習慣を確立することにより、生活全般の自己管理能力を育成する。			
		家庭との連絡を密にして、欠席・遅刻・早退等の保護者からの連絡を徹底させ、規律ある生活をさせる。			
	学力の定着と向上	各教科、公営塾と連携しながら自主的に学習する態度や家庭学習の習慣化を図る。			
		朝の読書に取り組むことをとおし、読書の習慣を身につけさせるとともに、落ち着いて授業を受ける学習態度を養う。			

別紙様式 2 (高)

		平常課外・長期休業中の課外・模擬試験・公務員講座等に積極的に参加させる。		
	進路意識の高揚を図る	進路ガイダンスや大子町企業見学、インターンシップ等の進路行事を通して進路意識の高揚を図り、進路目標を確立させる。		
		面談機会を増やし、次年度の進路決定に向けた準備をする。		
	生徒支援の充実	SHRや立哨指導で服装・頭髪指導を継続的に行い、品位ある服装・頭髪やマナーを定着させる。		
		心身面で問題を抱える生徒に対しては、教師間及び家庭との連絡を密にし、スクールカウンセラー及び専門機関と連携して一人ひとりに寄り添う支援を行う。		
	諸活動への積極的参加と 集団の一員としての自覚	活動、生徒会活動、学校行事、ボランティア活動に積極的に取り組ませる。		
		修学旅行や校外活動の団体行動を通して、協調性や責任感等を育成する。		
第3学年	進路実現を図る。	基本的な生活習慣の確立を継続し、社会人としての心構えとする。		
		進学、就職、公務員試験に向け基礎学力や一般常識を確実に身に付ける。		
		進路指導部や公営塾と連携し、多様な分野の進学指導を充実する。		
	社会人への進化を図る。	普段から服装、言葉遣いを正し、マナーの向上を図る。		
		正しい判断で自立した行動ができるようにする。		
	高校生活の集大成を図る。	最終学年として、学校行事、クラス行事に積極的に取り組ませる。		
お互いを認め合い、共存することを意識できる。				

※ 評価基準： A: たいへん良くできた B: 良くできた C: 普通 D: やや不十分 E: 不十分